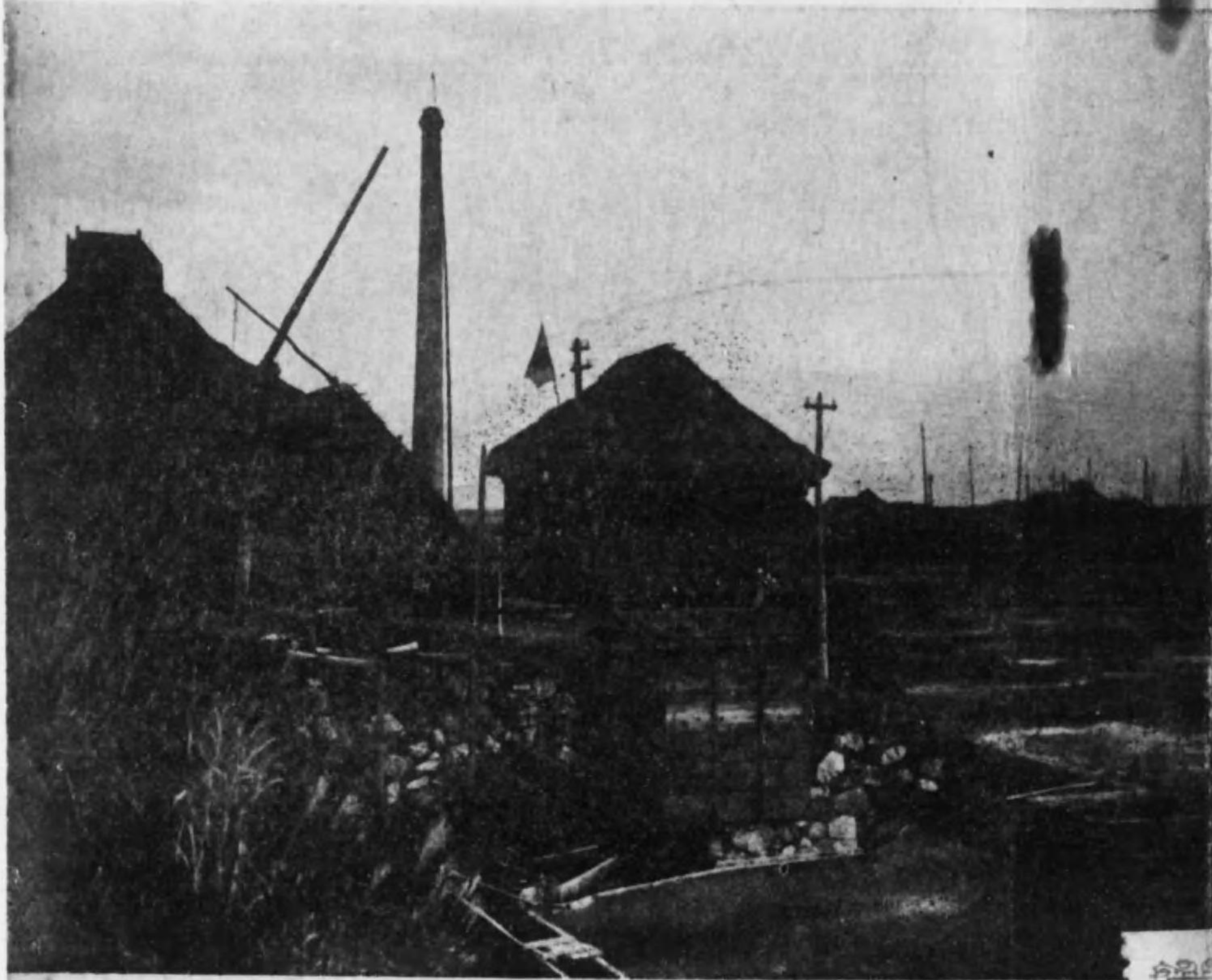


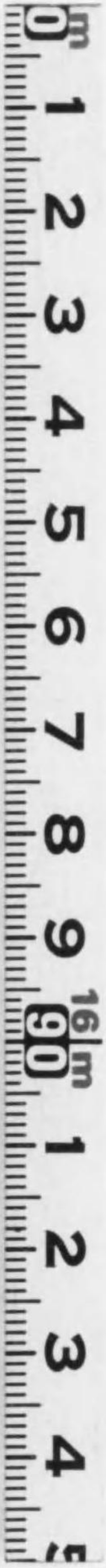
町勢一班

特255

716



兵庫縣赤穂町



始



特255
716



兵 庫 縣
赤 穂 町



鎌田

赤穂
種城
中學校

鎌田屋村

北長寺

尾崎村

驛

高女

小學校

千種川

東洋紡績

紫柑山

機上より見たる赤穂町附近



北

赤穂

赤穂 林

赤穂 中
赤穂 中

赤穂 寺

赤穂

赤穂 小

赤穂 高

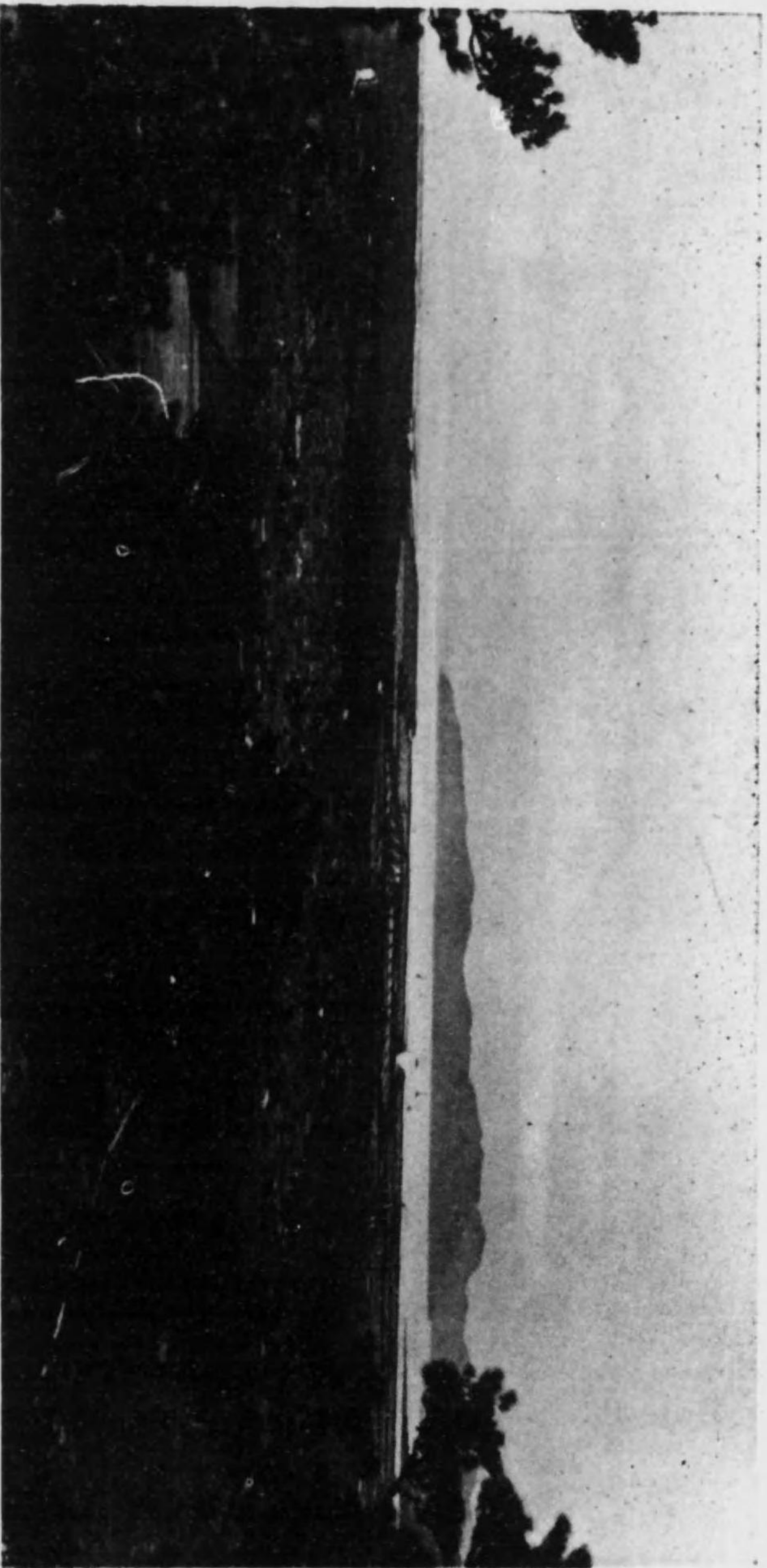
赤穂 三

赤穂 東

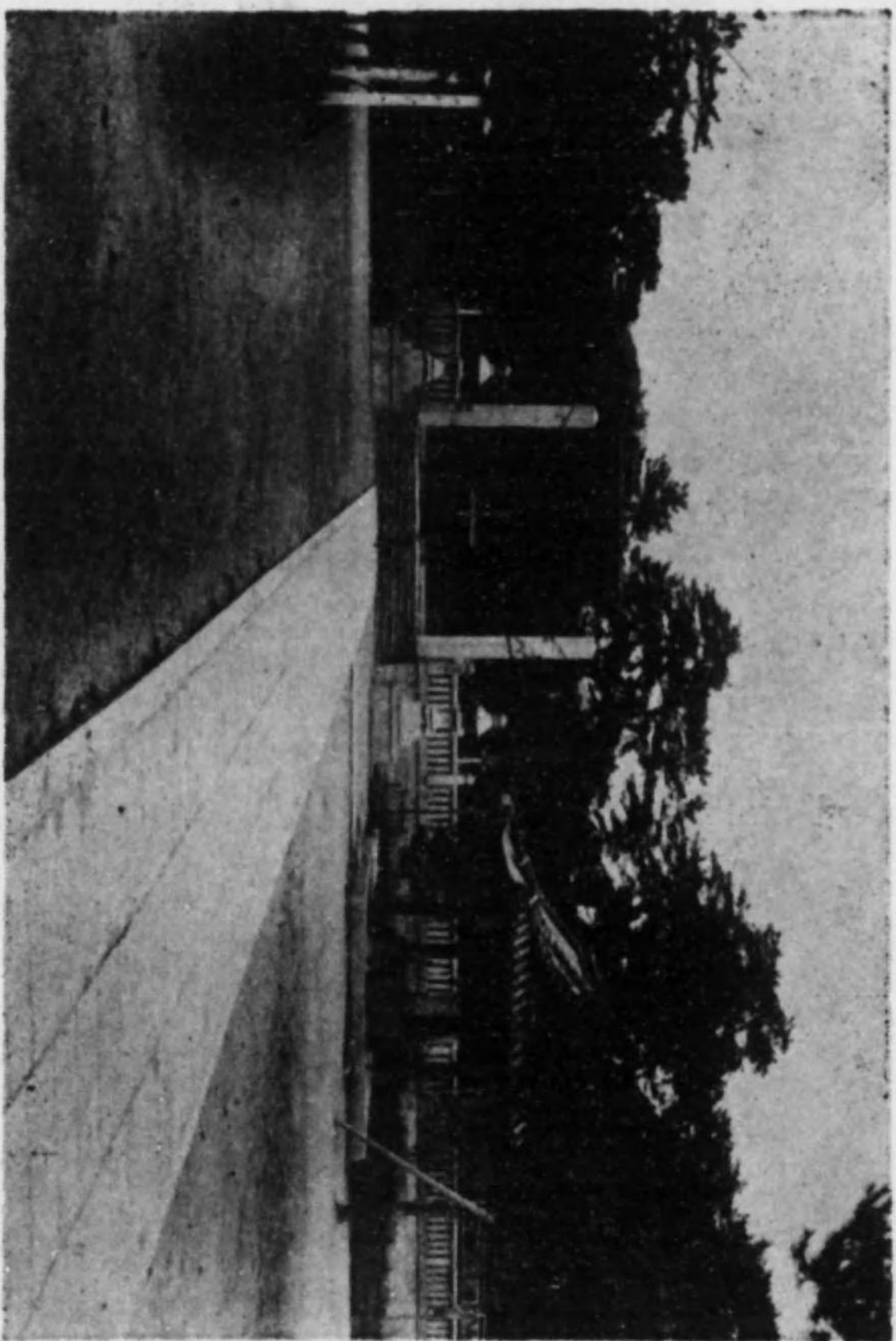
赤穂 山

赤穂 林

背山より赤穂町の一部を望む



右方松ヶ枝の下に見ゆるは網崎の一部向ふに望むは岡山縣鹿久居島の東部
左方松林は赤穂城址海に接する處は千鳥ヶ濱

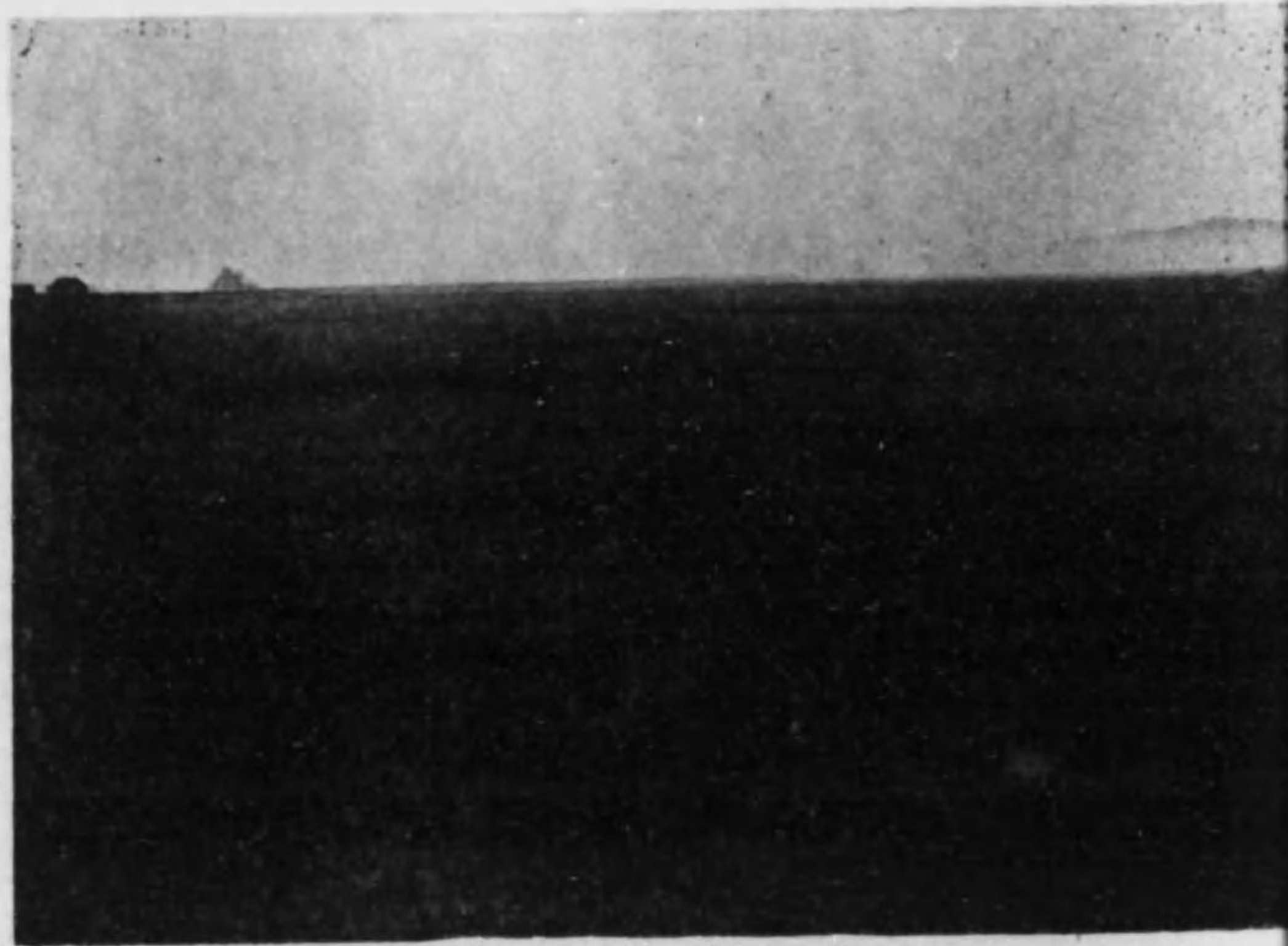


縣社 大石神社

縣社 大石神社

干拓を待つ千鳥ヶ濱

千種川から流出する土砂が沖積して河口から西へ廣く白砂の寄洲を爲して風波を凌ぎ干潟は平坦で満潮時に僅かに浸す位松の鼻方面に港灣を修築し干拓地とすれば絶好の處こゝは元千種川の本流であつた關係か極めて良質の地下水が湧出するこの面積は約五十町歩あり企業地として一般から瞩目せられて居る



千 鳥 ヶ 濱

はしがき

播州赤穂 といへば赤穂義士發祥地として又世に知られたる赤穂
鹽の産地として有名であるが最近赤穂海岸の名によつて赤穂御
崎の絶勝越浦十三景が世に紹介せられてから瀬戸内海の一角に
更に一輪の名花を添へた趣で赤穂は史蹟名勝産業の地として着
目せらるゝ處となつた

沿革 この赤穂は正保二年（二百九十余年）前淺野長直公が常陸笠
間から轉封せられて加里屋城を築いて治められ三代長矩公殿中
に於て刃傷の爲め斷絶し其後森家の治むる處となり明治維新に
至つたのである

歴代の藩主は地方産業の開發に力め新田並に鹽田の開拓及治水

土木の治蹟多く就中赤穂水道は今も恩澤に浴して居るものである。其他山鹿素行先生を招聘して文教を修めしめ赤穂義士の如き士風を養成したるは名藩主のありし賜である。

地名の起原と考察

赤穂の土地構成の起原は明かならざるも昔は今の大師山の麓から密柑山の麓へかけて波の打ち寄せしは事實らしい。それが千種川から年々流出する土砂の沖積によつて地層を構成したものでこの地方に蓼草が繁茂し其穂赤し故に赤穂と名づくといふ。

一、地 勢

赤穂町は兵庫縣の西南端千種川の西に北は山を負ひ南は瀬戸内海に望み赤穂港を構成して居る四時温暖で住宅地としても工業地としても多分に素質を備へて居る。千種川は受水面積四十八方に達し水量四季を通じて豊富である上水質も極めてよく地下水も亦豊富で何處でも湧出するから工業地として瞩目せられて居る。交通は那波、有年、三石、日生へ三十分で乗合自動車の便があり赤穂鐵道は有年驛に達し海路は高松、日生方面と定期船の便がある生業は商業を主とし製鹽と農業これに亞ぎ紡績、製藥等の新進工業に従事するもの多數を占めて居る。

土 地

面積と廣さ	面積		廣さ		地 境	
	方里	町	東	西	南	北
	〇、五八四六	一三、四	三三、五三	三三、五三	東大字 中廣	南大字 加里屋
					西大字 加里屋	北大字 加里屋

官有地民有地 (昭和九年)

民有地		官有地	
地目	種別	地目	種別
畑田	本町民有 他市町村民有	田 畑 宅地 鹽田 其他	田 畑 宅地 鹽田 其他
一三〇八、八〇〇 四六四、二〇一	八〇五、三〇五 九五、〇〇〇	二二一四、一〇五 五五九、二〇一 一四九、三五九、六七 一〇四三、八一八 九一二、三〇三	二、九三三 一、三二二 二、四七七 一三〇 一六四 七、〇〇六
二二一四、一〇五 五五九、二〇一	二〇四、二〇二 一三八、二二三 二、七〇一 三、五〇三 一〇、七一九 二、五二〇 四六、四〇六	七〇、三八六、四九 七、八九八、五七 五三、四七一、二九 五七、四三五、九四 二二六、九七 一八九、四一九、二六	二、九三三 一、三二二 二、四七七 一三〇 一六四 七、〇〇六
本町民所有 他市町村民有	本町民所有 他市町村民有	官公署敷地 墳墓及火葬場 溜池 病院敷地 其他	官公署敷地 墳墓及火葬場 溜池 病院敷地 其他
六二 八三	三三 一七	四六、四〇六 二、五二〇 一〇、七一九 三、五〇三 二、七〇一 一三八、二二三 二〇四、二〇二	四六、四〇六 二、五二〇 一〇、七一九 三、五〇三 二、七〇一 一三八、二二三 二〇四、二〇二
本町民所有 他市町村民有	本町民所有 他市町村民有	學校敷地 官公署敷地 墳墓及火葬場 溜池 病院敷地 其他	學校敷地 官公署敷地 墳墓及火葬場 溜池 病院敷地 其他
六二 八三	三三 一七	四六、四〇六 二、五二〇 一〇、七一九 三、五〇三 二、七〇一 一三八、二二三 二〇四、二〇二	四六、四〇六 二、五二〇 一〇、七一九 三、五〇三 二、七〇一 一三八、二二三 二〇四、二〇二
本町民所有 他市町村民有	本町民所有 他市町村民有	計	計
六二 八三	三三 一七	二二一四、一〇五 五五九、二〇一	二二一四、一〇五 五五九、二〇一
本町民所有 他市町村民有	本町民所有 他市町村民有	計	計
六二 八三	三三 一七	二二一四、一〇五 五五九、二〇一	二二一四、一〇五 五五九、二〇一

有 宅 地	分 區	其 他
一三九、八〇二、六七	鹽 田	八九六、三〇三
九、五五七	其ノ他	一六、〇〇〇
一四九、三五九、六七		
一〇四三、八一八		
九二二、三〇三		
九三		
七		
九三		
七		

二、戸數及人口

(十二月末日現在)

人口及戸數は量によつて町村の概要を知るものであるこれを累年比較と職業別比較によつて町の動向の一斑を知ることが出来るであらう而して最近二十ヶ年に七割増加して居る理である

年 次	國勢調査又ハ推計人口 十月一日現在		本籍人口		現住人口		現住戸數 現住人口
	男	女	男	女	男	女	
大正九年	一、三三〇	二、八〇三	三、九九五	三、九三六	三、一九一	三、二九二	一、二三〇
大正十年	一、四五三	三、〇九一	四、一九八	四、一三三	三、三八三	三、四〇四	一、二八八
昭和五年	一、七〇六	三、九一〇	四、四九五	四、三六四	三、九二〇	四、三三一	一、四三七
昭和九年	一、九一〇	四、五五〇	四、七四八	四、五九六	四、八〇四	四、六五一	一、六一八

職業別現住戸數

(十二月末日現在)

年 次	農 業	水産業	工 業	商 業	交通業	公職及 自由業	其ノ他 有業者	無職業	計
大正九年	四九二	一一九	一一三	三〇五	六六	七六	五四	五	一、二三〇
大正十四年	五一七	一二二	一一八	三二八	六七	七六	五五	五	一、二八八
昭和五年	二六八	一一八	三〇七	四五二	七四	一二五	四三	五〇	一、四三七
昭和九年	二一五	一一六	四六五	五〇六	八二	一三〇	五六	四八	一、六一八

三、財 政

自治の發達は必然的施設經營をして多岐多端ならしむる其處に大なる都市には大なる

る事業あり小なる町村には其れ相當の事業がある而して財政の膨張は一面自治の發達を物語るとはいへ極端に走るときは遂に財政の行詰を生ずる虞れあり従つて町財政に關しては常に町民の理解と協力とを俟つて堅實なる發達を切望して居るのである

昭和八年度決算

(円以下切捨ノ爲メ合計ト合致セズ)

歳入		歳出	
財産ヨリ生ズル 収入	一、二二一	雑 收 入	一二、四〇五
使用料手数料	一、八〇六	町 税	四、五三七
交 付 金	二、二〇〇	夫 役 及 現 品	五〇、九四八
國庫下渡金	一〇、六一五	繰 入 金	三、九八二
國庫補助金	二三四	町 債	四、〇〇〇
縣補助金	五、六九五		六、〇〇〇
寄 付 金	三、三五〇		
歳入合計	一〇六、九九七	歳出合計	一〇六、九九七

歳入		歳出	
會議費	三八四	下水道費	二七九
役場費	一一、四〇八	公園費	一一二
土木費	三、七六八	火葬場費	一一二
小學校費	二六、四九七	勸業費	二九六
學事諸費	一〇一	地方改良費	六〇五
補習學校費	二、八五六	公會堂費	二五八
幼稚園費	二、四〇五	社會事業費	六六〇
青年訓練所費	一、二二一	警備費	七五五
傳染病豫防費	六〇八	財產費	四一三
傳染病院費	五七五	諸稅負擔	四、二五六
歳入合計	一〇六、九九七	歳出合計	一〇六、九九七

入	歳
財産ヨリ生ズル 收入	一、六四五
使用料及手数料	一、七九三
交付金	二、〇〇二
國庫下渡金	九、七三〇
國庫補助金	五二四
縣補助金	一〇、〇六二
寄附金	一、一四〇
	繰越金
	一、二、六〇〇
	雑収入
	五、七二四
	町税
	六四、七〇四
	夫役及現品
	四、三八六
	財産賣拂代
	二〇〇

昭和十年度豫算
 歳出合計 一〇五、九八〇圓
 差引殘金 一、〇一七圓
 昭和九年度へ繰越

臨時部計 四七、四九九圓

(部時臨)	出	歳	(部 常)
土木費	一〇、〇七六	水道改築費	一、九六一
下水溝改築費	五九八	史蹟保存費	二八三
補助費	四、一九	水道調査費	七二九
納稅獎勵費	二〇	地方振興土木費	五、〇六七
公債費	一一、七七七	寄附金	二五〇
地方振興農業土木費	一、六三七	奉祝費	三〇二
小學校營繕費	一〇、六七六		
經常部計	五八、四八一圓		
		汚物掃除費	四三五
		衛生諸費	一七三
		水道費	一五二
		基本財産造成費	一五〇
		雜支出	九〇

(部時臨) 出 歲		(部 常)		(經) 出 歲		歲入合計 一一四、五〇〇圓
傳染病院營繕費	城址修繕費	公債費	納稅獎勵費	補助費	土木費	
一五、七二四	二七七	一二、九三三	二〇	三、七九二	九、五五五 _円	四六三
		國勢調查費 農村其他應急土 木費				一二、八一五
						三、九五八
						二九、一八五
						六六〇
						三、五〇三
						二、五二七
						一、一〇〇
						七三三
						二、二〇一
						一四〇
						五四〇
						一五〇
						二八〇 _円
						二四五
						三五〇
						一、三九四
						五、〇七〇
						五四〇
						一、〇九三
						一、〇四八
						三四四
						六四〇
						三八九
						五〇
						一一七
						二八〇 _円
						二八〇 _円
						一一四、五〇〇圓

臨時部計 四三、七〇〇圓

歳入歳出 一一四、五〇〇圓

歳入歳出 差引残金ナシ

町 税

昭和十年度町税の豫算額を各税毎に區別すれば左の通りで一戸當四十一圓七錢九厘で特別税戸數割は一戸當り二十圓四十七錢六厘である

地租附加税	四、九二七	縣稅營業稅附加稅	八五五
特別地稅附加稅	四三六	縣稅雜種稅附加稅	五、七八五
營業收益稅附加稅	一三、〇五二	特別稅戶數割	三二、二四九
家屋稅附加稅	七、四〇〇	計	六四、七〇四

町 債 (昭和十年一月現在)

町がある事業をする爲めに其經費の一部又は全額を政府其他から借入れて年々一部分づ、償還する借入金未償還額の現在高は二萬七千五百九十四圓二十二錢で一戸當り約十七圓五錢四厘の負担である

事業別	未償還額	昭和九年度償還額	償還終期
小學校移轉改築事業	二一、五九四、二二〇	一〇、八一六、九八〇	昭和十一年三月三十一日
小學校増築事業	六、〇〇〇、〇〇〇	—	昭和十三年九月三十日

町 有 財 産

各種財産は町勢の向上と共に年々増加しつつ、あるが昭和十年一月現在額は左の通りである

基本財産 土地 見積時價 二三、四〇〇圓
有價證券 一、三八三圓

學校基本財産	〃	〃	五四三圓
救濟資金			二、一六六圓
教育資金			四一圓
育英獎勵基金	有價證券	見積價格	一〇、〇〇〇圓
普通財産	土地		四二反〇〇八步
〃	建物		一、七〇三坪

四、教 育

初等教育は逐年人口の増加に伴ひ校舎の増築學級増加等の餘義なきに至らしめ現在では尋常科二十一學級高等科四學級兒童數千三百二十一人で就學歩合は九九、五九でこ、數年は毎年一學級宛の増加は免れない

中等教育は赤穂城本丸内に縣立赤穂中學あり生徒定員五百名質實剛健勤勞報國の精神を第一義として健全なる校風を樹立して居る

千種川畔に赤穂高等女學校あり生徒定員二百五十名忠孝、貞淑、禮節、勉學、敬身を校訓として健全なる婦徳を培つて居る

幼稚園保育施設として幼稚園を設け定員百二十名保育年限三ヶ年である

社 會 教 育

町の將來を負ふて立つべき青年教育に補習學校と青年訓練所あり補習學校は男子部は職業の關係上夜間にて毎夜二時間通年制とし女子部は晝間教授を爲し特に裁縫に重きを置く青年訓練所は生徒の職業を參酌し季節を選び主として夜間教授を爲す共に四圍の風物山川は過ぎし年赤穂義士を育みし環境なることを自覺せしめ勤勉報國の氣風を養つて居る

赤 穂 義 士 會

赤穂義士の精神こそは報國献身の心髓であらねばならぬ之を小にしては一身を持するに足り之を大にしては一國に報いるに足るものである

義士發祥を誇る赤穂では古くから義士會を起し遺徳の追慕顯彰に力めて日本精神の

作興に寄與して居る其行事としては

義士の祭典、武道奨励、義士に關する史實の研究、義士に關する遺跡の復興、義士に關する講演、雜誌義士魂の發刊等で目醒ましい活動をして居る

五、産 業

天與の地利を活用するに僅かに鹽業と農耕と小數の淺海漁業及隣接部落を抱容する商業を以て生業とせしも近時恵まれたる地利は時代の進運に伴ひ各種工業の粹をあつめ大勢に伴ふの大小工業の活躍を見るに至るこの種企業の益々振興を待望するものである

その重なるものを舉れば

苦 汁 工 業

世界市場に雄飛して居る我國ゴム製品の主要原料である炭酸マグネシウム煨製マグネシウムを大量に然も品質は優秀で外國品の輸入を防壓し今や世界市場に盛んに輸出して居る工場千種製藥所がある

こゝでは又人造絹絲製造に使用する硫酸マグネシウムや臭素を製造して居る臭素は染料や臭素鹽類製造の原料となるもので臭素鹽類の生産も亦輸入防壓の域に達して居るこの工場に使用して居る原料たる苦汁は昔から製鹽の際出來る廢液で處置に困つて居たのであるが歐洲戰乱當時藥品の輸入が杜絶したので政府當局をはじめ國民全體が智能を傾けたる結果利用價值が發見せられ豊富な用水の便と水質のよい点に着眼してこゝに工場を設け年を逐ふて益々隆盛になりつゝある

清 涼 飲 料 と 清 酒

千種川の清水を使用して出來る高級清涼飲料にアサシヲ飲料會社がある製品は酒精分を含まず美味で滋養百パーセントを誇るノールビールとアサシヲで内地は勿論外地にも移出して居る年産は三千五百石に達して居る

芳醇淡白な日本酒爽快味と陶酔味の王座を占むる日本酒の醸造に赤穂酒造と有井酒造がある生産は年二千五百石に達し上戸下戸老若男女の嗜好に適する上品な魅力をも有する大衆的銘酒が出來る



東洋紡績赤穂工場

東洋紡績赤穂工場

工場設備の規模資本内容に於て純紡績として名實共に世界第一を誇る大紡績會社たる東洋紡績全国各地に互つて三十有餘の工場の内最も新らしい設備の完備したる赤穂工場は年産額綿糸一萬三千餘捆綿布二萬餘米製産額は年額約七百萬圓で綿糸は原糸のみを製し綿布は廣幅金巾を織り商標は主として指環と洋琴で大部分は輸出品である

水質試験成績表

(檢水十萬分ニ對スル算數)

簡易水道水 (濾過設備ナシ)

色濁	臭味	反應	クロール	硫酸	硝酸	亞硝酸	アムモニヤ	カメレオンノ消費量	硬度	固形分
ナシ	ナシ	微弱アル	〇、五三三	痕跡	痕跡	不檢出	不檢出	〇、四二七	〇、七七五	二、九六〇

鑿井水

色濁	臭味	反應	クロール	硫酸	硝酸	亞硝酸	アムモニヤ	カメレオンノ消費量	硬度	固形分
微濁	ナシ	微弱アル	六、三九〇	微量	痕跡	不檢出	不檢出	〇、三三三	二、〇五〇	三、八〇〇

赤穂鹽田は歴代藩主の産業奨励により盛んになつたもので品質の優良で知られて居る

日露戦争當時鹽を專賣制にし品質の向上と増産奨励を爲した結果實に大した改善がせられ近頃では化學工場化しつゝ、ある製品は鹽田より製造せらるゝものと苦汁工業の副産鹽とがある三等以下の鹽は全然製造せないことになつて居る

今では東濱に八十三戸前西濱に百三十三戸前あり面積で三百五十餘町歩従業者が約二千人餘の人々の汗の結晶で出来る鹽

赤 穂 鹽 田



赤 穂 鹽 田



標 商



標 商

が四萬五千噸でこの賠償金が二百萬圓である

撚糸製網

漁業家の使用する漁網を手編みから機械編へとの希望から現れた⑦印中國漁網は漁業者の意嚮を多分に加味し撚糸の原料たる紡績も特に東洋紡績其の他の優良品を使用し撚の程度は網の生命を左右する關係上獨特の撚糸を製し製網も多く手編の經驗ある子女に従業せしめ爲めに耐久力に於て斯界の好評を博して居る製品は縣下は勿論中國四國九州方面の需を充して居る

農業

鹽業に従事する傍ら農耕するもの多數を占める爲め專業とするもの少く各種工業の進展に苛まれ農耕は自然衰退に傾き果樹園藝のみは益々進境に達しつゝあるその一斑を示せば

農家戸數				耕地面積			
別戸數	耕所有地	專業兼業	專業兼業	自作	小作	計	計
八五	五反未滿	二二五	二二五	五〇八反	一六三八反	二二四六反	二九一
六〇	五反以上一町未滿	三四六	三四六	二九一	二二二	五二三	七九九
一八	一町未滿三町未滿	五六一	五六一	二二二	二二二	四四四	一八六〇
四	三町未滿五町未滿	一二三	一二三	二二二	二二二	四四四	二六五九
三	五町未滿十町未滿	一〇五	一〇五	二二二	二二二	四四四	二六五九
九一〇	計	一二三	一二三	二二二	二二二	四四四	二六五九
四三七	五反未滿	一〇五	一〇五	二二二	二二二	四四四	二六五九
一三〇	五反以上一町未滿	三三三	三三三	二二二	二二二	四四四	二六五九
四	一町未滿二町未滿	五六一	五六一	二二二	二二二	四四四	二六五九
五六二	計	一二三	一二三	二二二	二二二	四四四	二六五九

米 (水稻) 獎勵品種 朝日

年	作付反別	收穫高	價額	一段歩收穫高	單價
昭和五年(最多)	二、一一四反	七、〇八八石	一二三、三〇二円	三、三五三合	一七、四〇〇円
平年	二、一四六	五、五七一	一二二、四四八	二、五九六	二一、八〇〇
昭和九年(最少)	二、二六六	四、三九六	一二四、七六八	一、九四〇 平年ニ對スル 七四七	二八、三八〇

小麦 獎勵品種 新中長

年	作付反別	收穫高	價格	一段歩收穫高	單價
昭和五年(最多)	四一〇反	九八四石	一二、七九二円	二、四〇〇合	一三、〇〇〇
平年	四八二	一、〇六〇	一三、四三〇	二、二〇〇	一二、六五〇
昭和九年	六五四	一、四三九	二〇、一四六	二、二〇〇 平年ニ對スル 一〇〇	一四、〇〇〇



蜜柑山

赤穂密柑

部落有財産を統一して町に寄属した林野が蜜柑栽培に適して居ることに着目獎勵して約二十年開墾と植樹に逐年の努力は酬ひられ近年良果を擧げ得る様になつた。まだく増殖の餘地は充分ある品種は改良温州で赤穂特産の一に數へるも遠くあるまい。

赤穂海苔

近年瀬戸内海漁業の不振から縣水産試験場をはじめ漁業者の活動によつて更正を呼び着目したる淺海利用方法として赤穂

町千鳥ヶ濱の西側悪水の排泄する處面積から見て約五千坪は海苔の養殖に絶好の地として殊にこの海面では種付に適しこの種付は縣下各海面に移殖して好成績を擧げつゝある將來養殖可能面積は千種川口にかけて五萬坪を得ることは裕でかくなれば赤穂海苔の聲價も又高くなるであらう

金 融

地方の發達進展に資本の力が寄與することは多大なものであるこの金融状態を檢するに奥藤銀行本店あり三十八銀行支店あり鹽業關係の西濱信用購買利用組合あ

赤穂海苔



赤穂城趾

り共に堅實なる業蹟を辿り附近町村の金融をして圓滑ならしめて居る

六、名勝遺蹟

赤穂城趾（甲州流小圓法による二百九十餘年前築城）日本築城史の上に九州柳河城と共に平地に於ける築城赤穂城は熊見川（現在の千種川の改修前）を東に望み南は海に西は深き沼池にて圍まれ頗る要害の城として姫路城と共に名城として囃さるゝは正保二年七月淺野長直公常州笠間から轉封を命せられ入城し築城の議を幕府に請ひたるも許されず遂に「手前普

請勝手次第に致すべし」とのことと漸く許され長直公は當時甲州流の軍學者近藤正純を奉行として繩張をせしめ其後五年を経て承應元年山鹿素行を召抱へられ近藤を援けて城郭の最も難工事たるお壕引水工事其他を竣功せしめ全く工を竣へたるは寛文元年で其間十三年の年月を要し後世知られたる大軍學者の心血を注がれた結果である今は天主臺と石壘のみとなり老松を吹く風も懐古の情を深からしめて居る

大石舊邸 (三反八畝十歩)

赤穂城大手門内にある正保二年淺野公入

城より元祿十四年淺野家斷絶まで家老大石良欽、良昭、良雄三世の邸宅で本邸は正徳年間焼失し長屋門と池泉のみが残つた邸内池泉の邊に大石大夫遺愛の櫻がある良雄の嫡子良金等の逍遙せし處今は史蹟保護建造物として昔を偲ばれて居る

縣社 大石神社

大石舊邸にあり大石良雄以下の四十七士と萱野三平の靈を祀り別殿に淺野三公及山鹿素行を合祀す四月十三日及十二月十四日の大祭には近郷稀の賑を呈し義士追慕の參拜者で人の波を打たせ四時の參拜者亦多し

山鹿素行先生謫居地

赤穂城二の丸にあり先生聖教要録を公刊して幕府の忌

大石舊邸



近郊の名勝

縣社八幡神社

尾崎村にあり近郊十五ヶ村の氏神で淺野家森家の崇敬篤く大石良雄の寄進したる自書金の屏風布袋の額等があるまた往古神功皇后三韓御親征の途次御船を繋がせられしと傳ふる祝祠岩は近くにあり赤穂御崎

新濱の南端一帯の絶壁靜かに瀬戸内海の穩波を迎へ老松奇巖より影さす處遙かに家島小豆島を望み



去來する眞帆片帆をかす
 むる鷗は更に書趣を添へ
 輛、屋島と共に赤穂御崎
 の名で天下に紹介せられ
 杖を曳く人次第に多きを
 加ふ
 坂越の風光
 縣社大避神社から望む瀬
 戸内海の風光兒島高德の
 墳墓をはじめ生島の原始
 林、坂越赤壁、岩戸の岩
 松等奇勝多し

避に觸れ赤穂に流謫せられ淺野公の賓師として此處に住まれ約十年間日本武士道の眞髓を講じ多數の藩士を

薰化する處多く先生の學は特に實行に重きを置き日本第一主義を教へ有名なる「中朝事實」は赤穂謫居中に執筆せられたもので我國體の精華を説き吉田松陰乃木將軍

の如き皆先生の遺著により心膽を鍊磨し其志氣を發揚せられたものである

四十七士逝て二百餘年先生の日本精神の鼓舞振作せられしもの多く其遺徳を偲び銅像を建つ

花 岳 寺

曹洞宗に属し淺野長直公の建立で淺野、永井、森家と歴代藩主の香華院で大石良雄以下四十七士の墳墓、義土木像がある元祿義舉に關係した遺物を多く藏して居る東京泉岳寺と共に四時參拜者が多い

義士息つぎの井戸

田町の曲り角にあり元祿十四年江戸で主君の凶變起るや近侍主務片岡源五衛門から國老大石良雄に宛てた早打狀を家臣早水藤左衛門、萱野三平が齎し百五十五里の道程を晝夜兼行宙を飛ばせて注進五日間で赤穂に著しこの井戸で一杓を飲み漸く息を繼ぎ大石の邸に急ぎしと云ふ

赤穂水道

古くから江戸と備後の福山と赤穂を日本の三水道と稱へ慶長年間に池田輝政の家臣垂水半左衛門の起工したるもの其後數次の改修により現在は上流二里高雄村木津に取入口を設け千種川の河川を引用町外れから道路下に樋管を伏せ各戸に給水して居る外田用水にも利用し如何なる早魃にも渴れたことを知らない

七、將來の計劃

都市計劃 赤穂城を中心として元祿遺蹟の復興より町街の區劃整理をはじめ工場地區の設定から港灣設備の充實等赤穂將來の福趾を増進すべき施設の計劃樹立を要すべきも國鐵の實現も近きにより之が實現を機として實施すべきか

上水道計劃 古き歴史を有する赤穂水道も時代の進運に適合せざるものあり原料水の豊富と水質の良は計劃の實施に容易ならしむるものあり設計も既に完成した、時機の到來を俟ちつ、ある之れが實現の速かならんことを望む

傳染病院 人口の増加は必然的に保健衛生の重要性を増しつ、ある隣接村と聯合施設を協議し近く理想的なものが實現するも近いうちと思はれる

塵芥焼却と火葬場 町街の清潔は塵芥處分の迅速處理にある近く焼却爐の新設を見るであらう

火葬場と葬儀場これも解決が遠くはあるまい

八、結論

以上述ぶる處は只町勢の過去現在未來に流動する推移の一斑を示した片影に過ぎないのである本町は幸にして天與の地利に恵まる、もまだく躍進向上の鍵は閉ざされて若き希望に燃ゆつ、あるのであるこの希望こそ將來益々産業を振興せしめ以て町勢發達と國運の隆昌とに貢献すべきであると思ふ

九、重なる旅館と土産物

柴田 旅館 電話二二番 赤穂城大手門前
 赤松 家 電話三〇番 赤穂町寺町
 赤井 旅館 電話四四番 赤穂町橋本町
 玉屋 旅館 電話二八番 赤穂町公會堂前
 末政 旅館 電話六〇番 驛前
 花屋 旅館 赤穂町寺町
 うさや 旅館 電話二三四番 警察署前
 西畑 旅館 電話一五六番 千種川畔

一〇、赤穂土産

宮崎の焼鹽 赤穂土産としてなくてはならない三百年の歴史を持つ宮崎の焼鹽數回宮内省御買上の光榮を浴する雅味あり萬人の趣好に適する焼鹽は眞に天下一品
 赤穂緞通 機械工業の益々盛んなる時代に手織の精巧な雅味充分の客室用高級敷物使用に年を経るに従つて品質がよくなる其處が世評を高める所以である
 名菓鹽味 赤穂鹽の風味を加味して製したる茶用名菓 赤穂土産の雄
 赤穂樂燒 文人雅客の愛玩に適する雅致ある燒物藻汐やく釜屋の香爐は鹽竈の香爐と銘して尊き方の御買上げも賜つて居る
 義士遺墨石刷 義士の遺墨の刷物潔き節操を以て綴られたる一句一章義士の面影を偲ぶに足る

附近の村勢

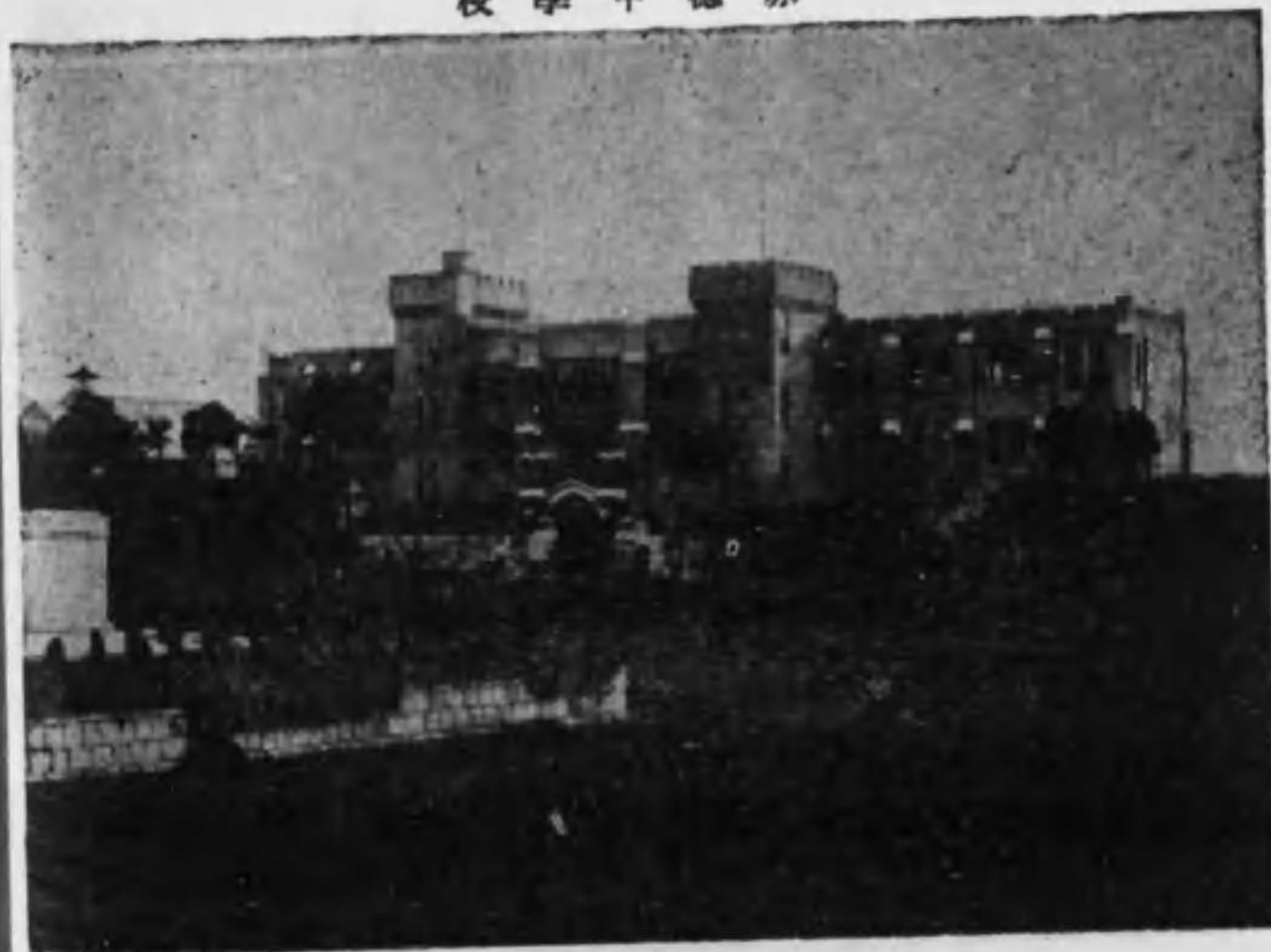
鹽屋村、赤穂町の西に隣し戸數千二百戸農耕と鹽業を主業とし平和なる溫柔郷で村財政は豊である尾崎村、千種川を隔て東に隣す戸數八百五十戸製鹽に従事するもの多數を占め舉村勤勉の美風あり村民の確乎たる精神と蓄積せる餘力は隣接町村を浸しつ、ある

新濱村、赤穂御崎の所在地製鹽業と船乘業を主業

とし女は赤穂緞通を織る戸數四百五十戸風光の明朗宏大なる雄景は人を誘ふて談らしむるものがある
 坂越村、秦河勝公の隱棲地風光よく戸數八百戸巨富を有する者多く村財政豊なり海に接する處より工業地として活躍しつ、ある
 高雄村、千種川の上流に部落散左する純農村戸數四百戸に満たず勤勉の美風あり圓滿なる自治の發達を治めつ、ある

赤穂中學校 元祿の義擧は日本武士道の精華であり我國歴史の美談であるのみならず現在残つて居る所の環境は亦教育の地として絶好の地であるこの意味に於て地方人士の燃ゆる意氣と努力を以て創設せられたる赤穂中學は赤穂義士の生きた事蹟を教材とし山鹿素行先生の遺風を紹述して精神教育に最も重を置き純日本の國士を養成すべき趣旨に鑑み素行先生の訓へたる實踐躬行質實剛健を教育の二大綱領として知育に偏せず精神教育を重んじて大義を辨へ時勢を知り自己の本分責を解しその責任を完全に遂行するに足る能力と健康を有し且つ節度ある人材の養成に努めつゝある

赤穂中學校



義士精神

義士精神とはつまり日本魂のことで赤穂義士によつて發現せられたる日本精神であるから義士精神と稱へらるゝので赤穂義士があれだけの立派な事業を遂行し得たのはこの日本魂の發露の結果である日本魂も武士道も義士精神も要するに基づく處同じ流れ川の水至誠に外ならないのである山鹿素行先生は士道を説かれたうちに己の職分を知り道に志し志す所を力め行ふと詳説せられて居るこの最後の力行こそ日本精神の表現で吾人の歩むべき道ではなからうか

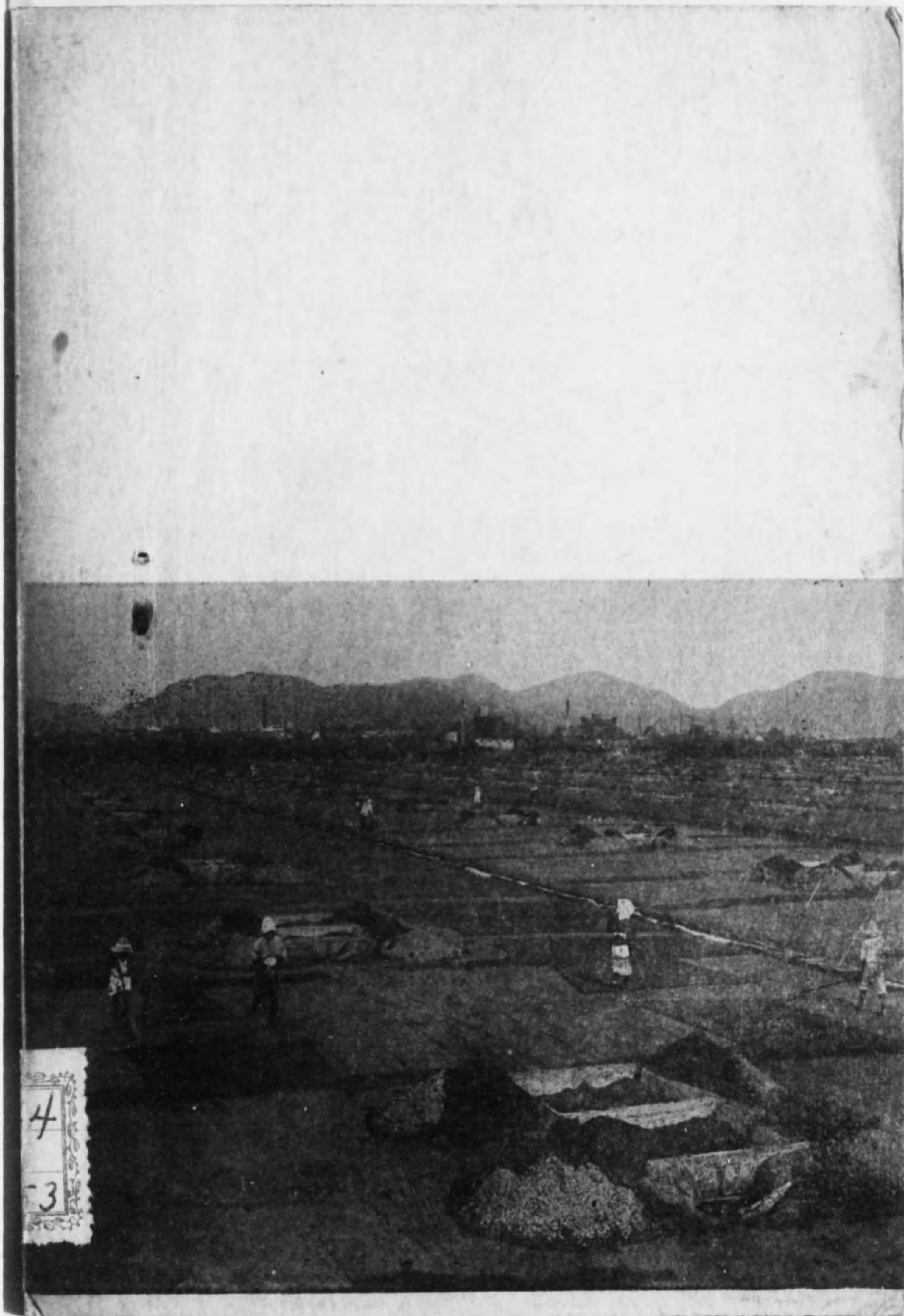
昭和十年三月一日印刷
昭和十年三月五日發行

兵庫縣赤穂郡赤穂町役場

兵庫縣赤穂郡赤穂町加里屋二二五番地
印刷者 川 端 一 郎

兵庫縣赤穂郡赤穂町加里屋二二五番地
印刷所 川 萬 印 刷 所

終



4
3